

やしろ
とわ もり
ヒカリの社
永遠の杜

コンセプト

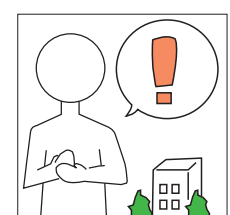
「日向の国」宮崎は太陽・海・地形という自然状況から生み出されたヒカリを受ける地であった。一方、「現代」の宮崎では温暖な気候、地域の特性を活かした産業としての観光業を「外向きのヒカリ」として放つ地になっている。そして、「未来」の宮崎の在り方はヒカリの—あたらないもの—時代の中で隠れてしまったもの—忘れてしまったもの—気づかないもの—を見えるようにするため、新たな“地域を照らすヒカリ”を作り、3つの光を共生させることで、見えないものを明らかにすることが必要である。

光は物理的にモノを照らすだけでなく、収集、持続、閃き、誘導、発見などを可能にする力がある。それらの光の力を利用した、ひらめき、みちびき、きずきの3本の柱によって Well-Being を実現させ、持続可能なまちづくりのデザインを提案する。

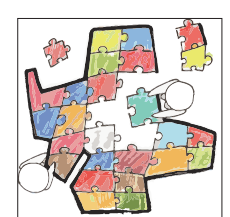
宮崎市における21世紀型成長戦略

「20世紀に発達した観光業」と「地域」と「市民」を共生させることで持続可能なまちづくりを目指す戦略。

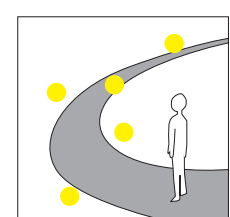
Well-being 宮崎市民ひとりひとりの身体的・社会的・精神的な幸福の実現。



〈ひらめき〉
記憶に残し、ひらめきを与える

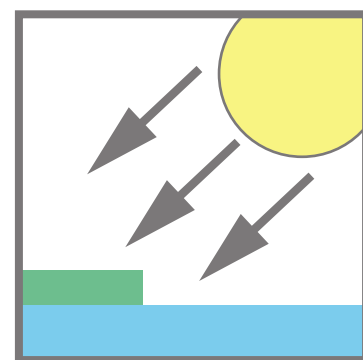


〈きずき〉
学びや交流によって地域への愛着や
地域をきずく

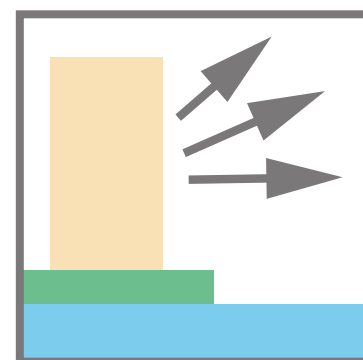


〈みちびき〉
地域と人を植物によって繋ぎ、みちびく

宮崎と光の向きの変化



「日向の国」

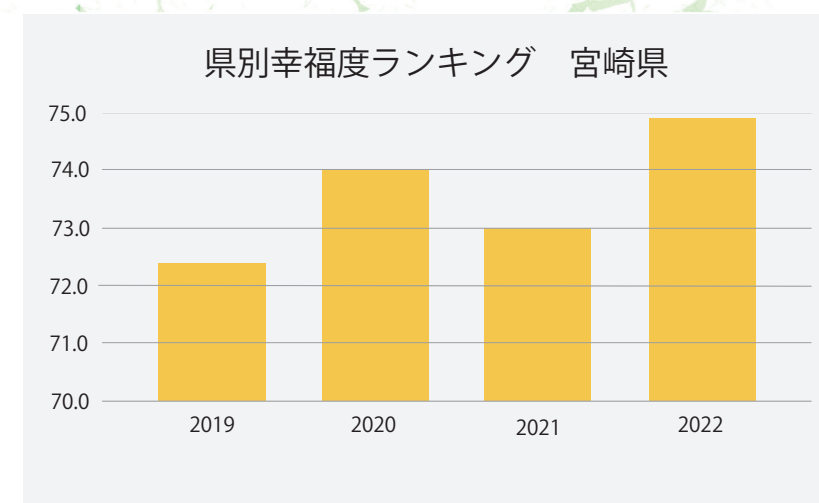
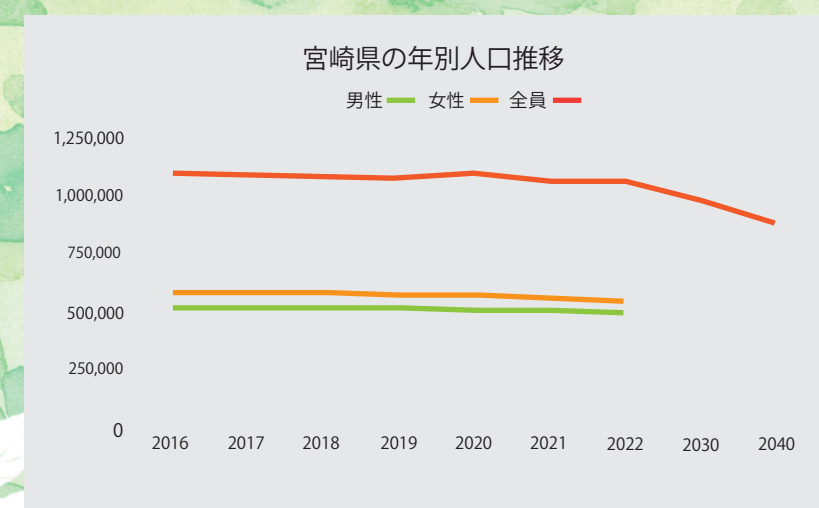
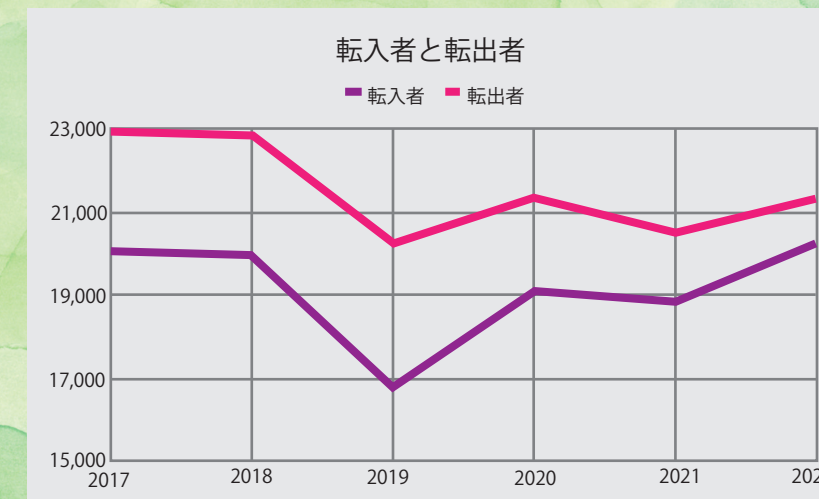


「現代」



「未来」

現況分析



2017 年と 2022 年の転入者数、転出者数を比べるとその差は縮まっているが、感染症の流行が落ち着くと共に転出者数が増加していくと考えられる。

以上のことから、宮崎の人口が減少していて、2030 年には宮崎県全体の人口が 100 万人を切ると予想される。

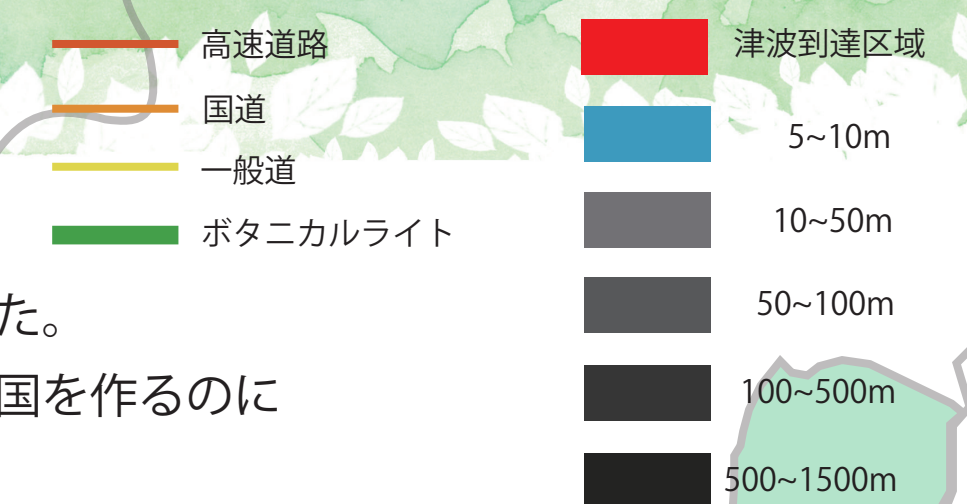
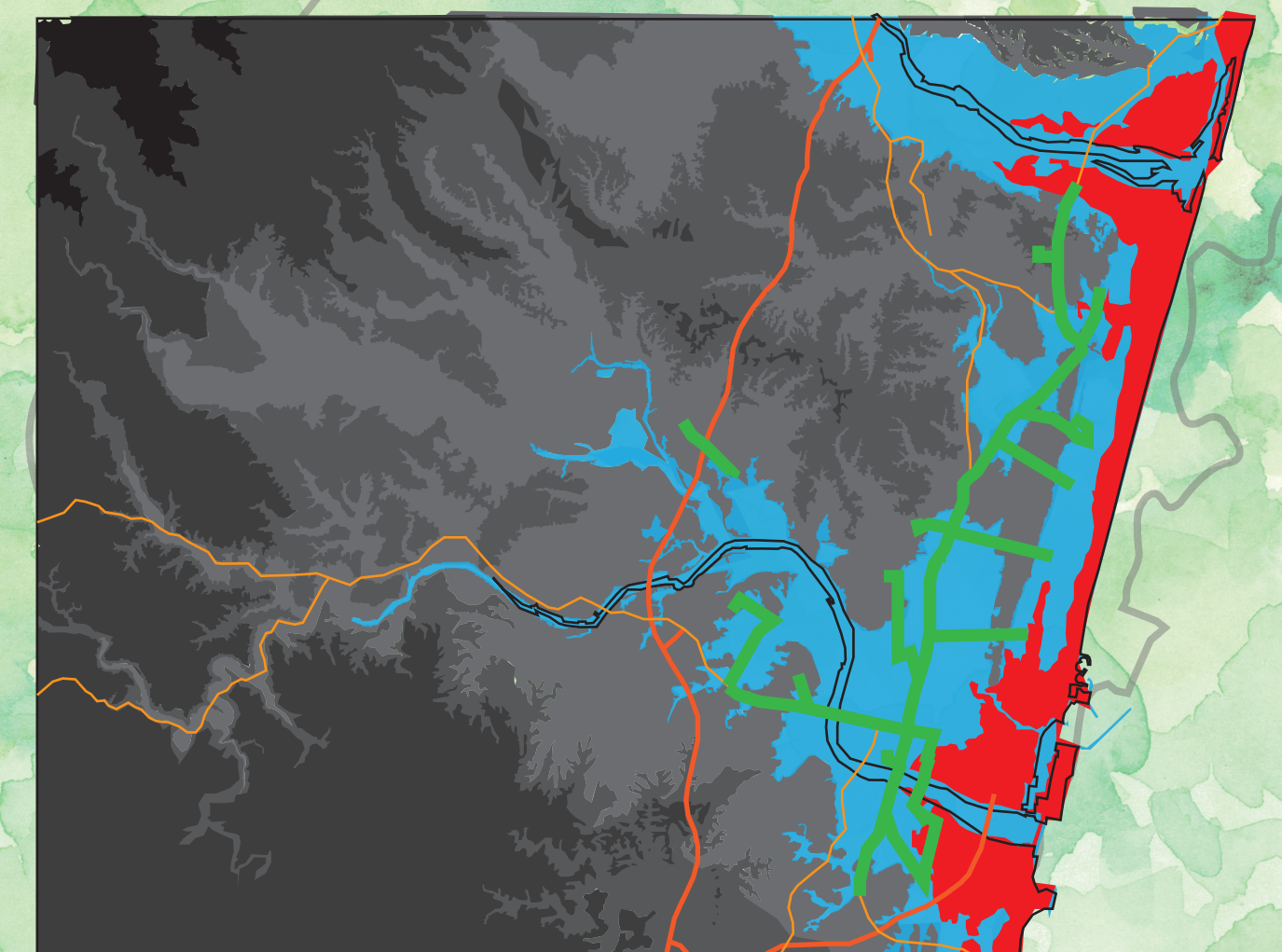
県別幸福度ランキングによると、幸福度の点数は年々上がっているがそれに反比例して順位は下がっている。

宮崎県は今まで、観光業に力を入れていた。宮崎県には神話や古墳など、日本という国を作るのに欠かせない歴史がある。共に自然、海、空港、歴史、観光など、当たり前が存在しているようで当たり前ではない、宮崎にしか無い誇るべきものがたくさんある。

対象地には、海がある土地特有の海から陸に向かう海風が吹いている。

対象地は広く海に面しており、津波の被害が大きい。

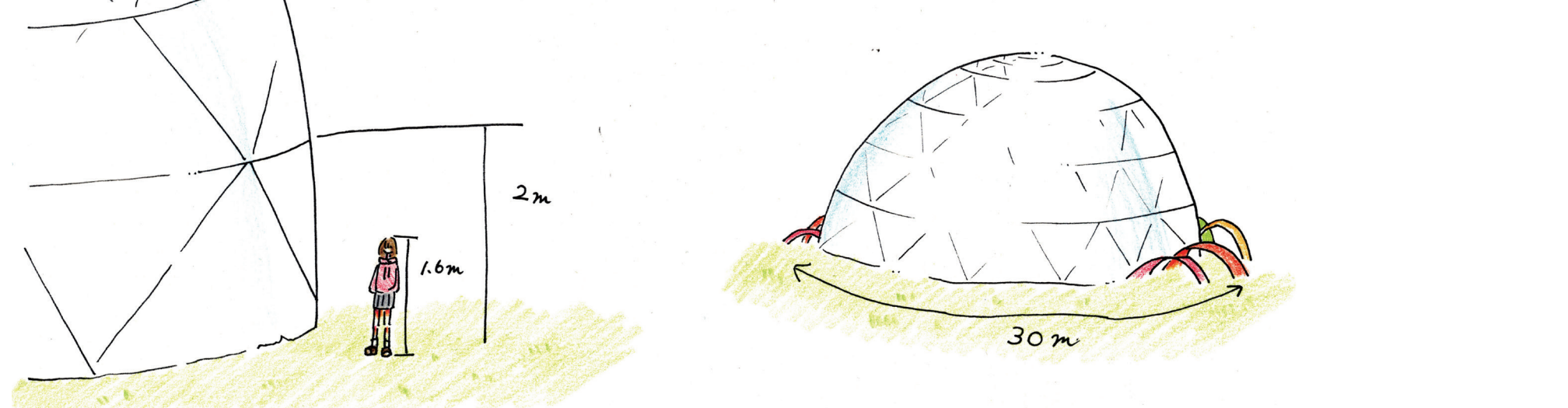
地図・地形図



この提案は、より多くの地域住民とリゾート地を共生させるためのデザインである。

地域住民をリゾート地を集めるためには、日常的に取り入れやすく、活用しやすい場をそこにつくることが重要だと考えた。

そこで、瞬間的に記憶に残らせ、地域住民に閃かせることが出来るデザインを提案する。この建物は『ひだまり』。シーガイア・リゾート敷地内の東側に位置する。建物の形状は、この地域のシンボルである太陽を模した丸い形が最適だと考えた。



ガラスは光を吸収しやすいため建物自体が太陽のように光って見える。また、夜はほんのり光るため、月のような落ち着いた雰囲気になる。

無数にあるガラスの入り口や、建物の周りにある宮崎産の杉を利用したオブジェ、あえて何もない空間は、人によって利用方法が異なる。砂浜に面しているため、どこからでも行きやすく、帰りやすい。人の数ほど利用方法が存在する仕組みにすることで、見た目と違った印象を与え、記憶に残るデザインになっているところもこの建物の魅力だ。



この建物の床は、ウレタンカラーゴムチップ舗装材を使用し、子どもや高齢者も訪れやすくなっている。

この建物の周りは広々しているため、キッチンカーや、ワークショップなど地域住民との憩いの場としても利用することが出来る。そのため、シーガイア・リゾートと協働で運営し、観光地の新たな収入を得る場となることも可能である。

『ひだまり』の由来

太陽のように丸いデザインで、地域の人々が集い
あたたかい場所になると考え“陽だまり”を連想した。

そこから“陽だまり”に、宮崎市の日向、地域にとってのシンボル、そしてミライを照らす日のたまり場所など多くの思いを込め、ひらがなで優しい印象を与える『ひだまり』と決めた。

きずき

学生時代で宮崎について学びつつ、地域との交流をすることで、地元への愛着や信頼関係を築くことが出来る。

大人になって地元に戻ってくことで子供の頃に築いていたものに気づく。

【宮崎学】

宮崎の産業、文化、歴史などを学ぶ新たな学問。調べ学習をしてまとめたり、実際に体験をしたりすることでより身近に感じることが出来る。



【地域協働活動】

学生が地域住民と協働でボランティア活動を行う。空き家を清掃し、綺麗に保てば、空き家を利用した移住者の住む場の確保が出来る。



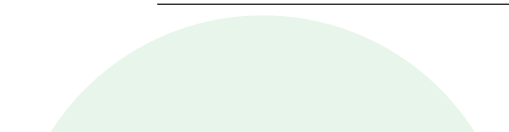
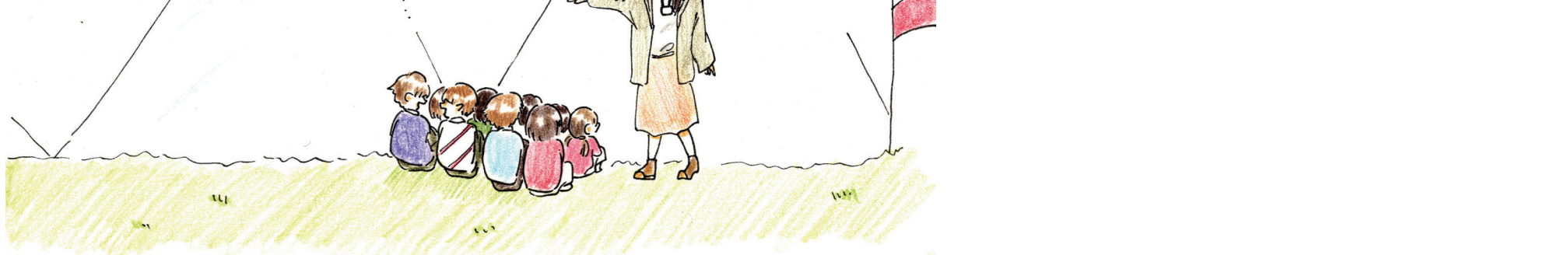
The diagram consists of four overlapping yellow circles arranged in a square pattern. The top-left circle is labeled '産業' (Industry). The top-right circle is labeled '文化' (Culture). The bottom-left circle is labeled '産業' (Industry). The bottom-right circle is labeled '自然' (Nature).

【森林公園】

気分転換やストレスを解消させる場として森林公園を利用する。木々の緑によって心身の癒やしの場となる。

【兒童館】

子供を預かる、子育て支援が出来る場として、地域住民が協力して公民館で子供を預かれるようにする。住民同士、子供同士の交流や、文化や歴史などの語り継ぎ、子育て支援をすることが出来る。



アユシステム

宮崎市に流れる大淀川にはアユやウナギなどの川魚が生息している。アユは、川を遡上する習性を持つ。これは、海よりも川の方が子を産む環境に適している。アユシステムとは、宮崎で生まれ、一度巣立ち、また宮崎で生活する。アユがメインとなっていたが、この地では空港が近くにあることで国内線がメインとなっていた。私たちは新たなターンシステムを提案する。

時間軸のデザイン

【宮崎市民の生涯】

生まれる 0歳

宮崎学を通じた教育文化や歴史について学ぶ

18歳 20歳

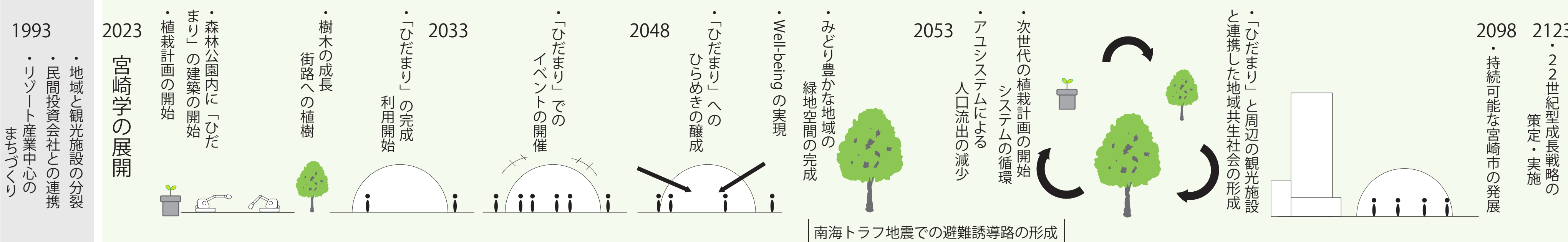
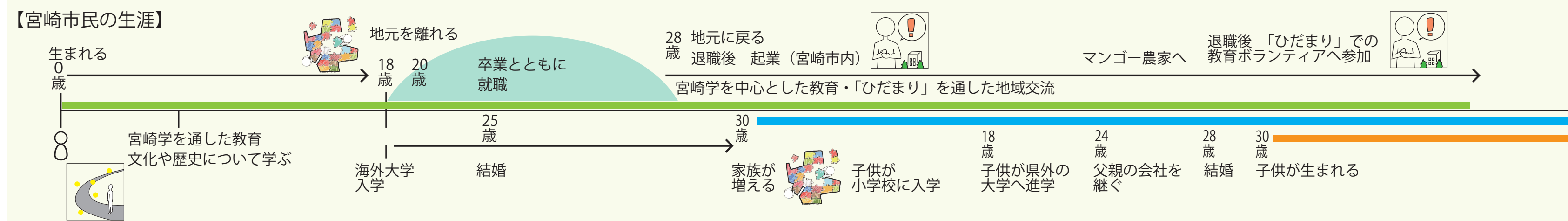
地元を離れる

卒業とともに就職

25歳

海外大学入学

結婚



みちびき

ひすい
「ユウ ユウ」

周りの木々が
案内してくれます

疲れた体を
休めませんか？

「翡翠」

この植栽デザインは、植物と共存する微生物が生命活動をする際に、土中で放出される電子を利用して発電するボタニカルライトを取り入れている。また、IoT化させることで散歩や仕事帰りに近くの植物の横を通った際に情報端末への通知やボタニカルライトが発光する。

AIを活用し個人の履歴より分析を行い、スマートフォンやウェアラブル端末を通して、まちを歩きたくなるきっかけを与え「みちびく」。

独立した電源とすることで安定した電力供給ができ、災害時での夜間の避難誘導など「日常」「非日常」双方でみちびく。



「翡翠」は市民で育てる。子供の頃に親と育てた木を、自分が大人になった時、自分の子供と新しい木を育てる。自分が育てた木が道路に植えられる。そうすることで、更にみどりを増やし地域を豊かにしていく。



【翡翠】	【電力システム】	
------	----------	--

【翡翠】	【電力システム】	
------	----------	--

